

そなえあれば
うれいなし

西淀防災 Times

Vol. 1 令和4年4月25日発行

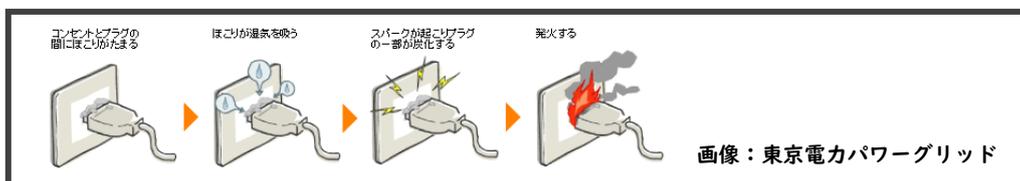
『西淀防災 Times』Vol.1では、令和4年5月6日（金）の火災避難訓練についてお伝えします。今年度も雨の日を想定して避難訓練を行います。表面に昨年度の変更点と注意すべき点、裏面には避難のポイントを記載していますので、一度読んで確認し、学年等で話し合っで災害に備えてください。

昨年度との変更点

①想定場所の追加。※今年度も場所のみ事前公表します。

昨年度は、火を使用する機会がある教室での出火を想定し、給食調理室・理科室・調理室のいずれかで訓練を行うこととしておりました。しかし、出火の原因は火だけではなく電気による場合も考えられるので、電力を使用する機械が多いパソコン室も今年度は新たに想定の一つに加えました。

みなさんは「トラッキング現象」をご存知でしょうか？この現象は、コンセントとプラグの間にたまった埃が湿気を含むことによって発熱・発火する現象のことです。火災に関するニュースでコンセントからの出火原因とよく聞かれますが、この「トラッキング現象」が関係していることが多いです。最近では、埃防止の延長コードも販売されるようになりましたが、必ず防げるとは言えません。この現象は定期的にコンセントから抜いて乾いた布で埃を取り除くことや、普段使用しない場合はコンセントを抜いたままにすることで防げるので、出火原因にならないためにも、このことは意識したほうがいいかもしれませんね。



②今年度は非常ベルを鳴らします。

昨年度は、火災発見者が全校放送をしてそのまま外へ避難するという流れで取り組みましたが、夏以降に外の高温や暖房等による気温上昇による非常ベルの誤作動が相次ぎ、誤報の全校放送が何度かありました。非常ベルを聞いたときに「また非常ベルが鳴ったけど、どうせ誤報だろう…」と思っている方もいたかもしれません。しかし、油断して過ごしていると、非常ベルが聞こえた後に「〇〇室で火事です。今すぐ避難してください。」と全校放送が聞こえた際に慌ててしまい、逃げ遅れや火傷などの怪我につながる恐れもあります。今回の訓練では、時間指定なしで突然非常ベルが鳴りますので、訓練以降で実際に避難が必要になった時に、冷静に対応ができるようになったらと思います。避難指示が出た場合に、誰がどの児童生徒について移動するかを学年等で話し合っで確認しておいてください。



注意すべき点

○酸素ボンベを使用している児童生徒の避難について

酸素を利用している児童生徒については火災の際に特に配慮が必要です。厚労省より、「在宅酸素療法用酸素使用時は周囲 2m以内に火気を置かないこと」という指針が出ています。担当学年に酸素ボンベを使用している児童生徒が居ない場合も今後対応することが出てくるかもしれませんので、念頭に置いておいてください。

裏面へ続く→

今年度の避難のポイント



①場所について（給食調理室 理科室 パソコン室 調理教室）

●理科室での出火の場合はスロープが使用不可になります。スロープが使用できない場合は2階から階段の避難になります。また、パソコン室では出火の状況によってスロープを使用するか判断する必要があります。事前にどの階段が一番近いかわかるように階段付近に避難を妨げるものがないか等を確認するようにしてください。

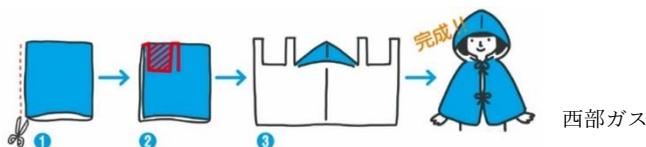
※避難訓練では階段の位置を見童生徒と確認し、車いすの見童生徒はスロープで避難してください。

●2階で出火した場合でも、その真下は床が落ちるなどの危険性があります。一番離れた経路を選びましょう。

※避難経路図は、職員会議の資料に載せる予定です。

●給食調理室が東側、理科室、パソコン室、調理教室が西側にありますが、どれも避難場所である運動場やピロティに近い場所となっています。実際に火災が起きた場合は、理科室の薬品などから爆発の危険性があり、小学部教室側の裏庭に避難することも想定されます。

※避難訓練では裏庭に虫が多いことから運動場かピロティでの避難となります。



②雨の日について

最初も述べましたが、今年度も雨の日を想定して実施します。実際に火事が起きた際は、校舎外を移動する場合があります。雨に濡れてしまうと低体温症になる可能性もあり命に関わる子どもたちもいます。それを防ぐために持参の車いす用のレインコートや傘で対応する必要があります。

※ない場合…昨年度から防災PTで推奨している「ゴミ袋ポンチョ」があります。簡単に作成出来るので、各学年見童生徒+教職員の人数分を用意しておく、緊急時に役立つかもしれませんね！

（参考：NHK つくってまもろう「ゴミ袋でポンチョをつくろう」、西部ガス「防災クラフト」）

③時間について

今年度も 9:30～10:30 の設定で行いますが、いつ訓練が始まるかわかりません。この時間帯は医療的ケアや、プロンボード立位中など様々な場合が想定されると思います。以下に対応の仕方をいくつか挙げます。

●医療的ケア実施中は慌てず、ケアを的確に中止し、速やかに避難してください。避難後、医療的ケアの状況（胃残確認の途中など）を看護師さんにお伝えください。※今回の火災訓練では医ケア終了後に避難してください。

●プロンボードや座位保持椅子は屋外での移動には適していない物があります。目の前に火が迫っているなどの危機的状況以外では車いすの乗り換えを安全に避難しましょう。

●「誰と、どこに、何をしに行くのか」などの情報共有を日頃から教員間でしましょう。情報共有することは訓練以外の場面でも大切なことです。共有しておく、緊急時に放送が聞こえず逃げ遅れた場合でも助けに行くことができるようになります。

④移動について

実際の避難では座位保持椅子とバギーどちらがよいか、判断に困ると思います。座位保持椅子は室内で使用されるため、長距離移動や不整な道には適していない構造になっています。火災の場合は出火場所から離れることが大事なので敷地内程度の移動で済むこともあり、座位保持椅子に乗ったままでも避難できる時もありますが、大規模な火災や津波で長距離移動する場合や、避難経路の状況によっては、安全面を優先して移動できるバギーに乗り換えることが望ましいです。

※今回の火災避難訓練では移動方法を指定しませんので、各学年で話し合って避難するようにしてください。